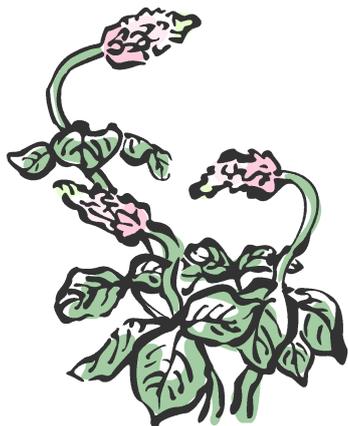


夢を持とう



きっと今の親の世代までは、小さな頃にいろいろな夢を持っていたでしょう。小さな頃は「プロ野球の選手になりたい」「ケーキ屋さんになりたい」など様々でした。近所のお店や家族の人の仕事をモデルとしてそのような夢を持った方も多いと思います。

ところが、今の子どもたちは、なかなかそういう夢を持つことができません。理由は何なのでしょう。

その大きな原因は、子どもたちが育つ社会環境の変化があまりにも激しいことがあげられます。産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等があげられます。アメリカの学者は30年後には、現在ある職業のうち約60%がなくなるだろうと言っています。つまり、それだけ激しい変化の世の中になるのです。これは、子どもたちの将来のとらえ方にも大きな変化をもたらしています。子どもたちは、自分の将来を考えるのに役立つ理想とする大人のモデルを見つけにくく、自らの将来に向けて希望あふれる夢を描くことも容易ではなくなっているのです。

また、人間関係をうまく築くことができない、自分で意思決定できない、自己肯定感をもてない、といった子どもの増加などがみられます。

しかし、その中でも子どもたちは、未来に向かって歩を進めていかなければいけません。とどまることなく変化する社会の中で、子どもたちが希望をもって、自立的に自分の未来を切り拓いて生きていくためには、変化を恐れず、変化に対応していく力と態度を育てることが不可欠なのです。そのためには、学ぶ面白さや学びへの挑戦の意味を子どもたちに体得させることが大切になります。子どもたちが、未知の知識や体験に関心を持ち、仲間と協力して学ぶことの楽しさを通して、変化に対応できるようにするのです。学校で学ぶことは、生涯にわたって学び続ける意欲を維持する基盤をつくっていくことになるのです。夢を見つけて、それに向かって学び続けるのです。

さて、そうなってくると、わたしたち親はどうでしょうか。どこかのCMではありませんが、「パパの夢は？」なんて聞かれて、どう答えるのでしょうか。「親は、子どもの鏡」。背中で教えたい親になりたいものです。

(文責 教頭)